

# 学内保育所の状況について

東洋大学他、非常勤講師  
白井 千晶

学内保育所は、まだまだ整備されている状況とはいえませんが、大学付属病院内の託児所・保育所・保育室をさきがけとして、何十年もの歴史をもつ保育所もある。また、大学が設置する保育所ばかりでなく、共同運営方式（自主保育所）の歴史も古い。「職業婦人」という地位で女性が就労していた時代から、様々な設置主体、運営方法で学内託児所・学内保育所は存在してきた。

近年では、大学も事業所として子育て支援（次世代育成支援）をしている。また、各大学では、男女共同参画室、男女共同参画推進室等を設置して、男女を問わず教育、研究に取り組める環境を整備する一環として、一時保育施設、月極保育施設の設置に乗り出す大学も出てきた。生涯学習を背景に、子育て世代や社会人学生など学生が多様化し、また一般向けの生涯学習講座を経営として成立する事業として運営したいという目論見もあり、学生向け、一般向けの一時保育への需要も高まっている。

一方で、各種保育施設や保育サービスの充実により、学外にアウトソーシングしたり一般保育所化して大学経営に負担をかけない方策も模索されている。

こうした現状において、2008年1月時点で確認できた学内保育所は、別表に示したとおりである。最近の傾向としては、①大学設置保育所、学内保育所から脱却する形で、認可保育園、東京都認証保育園化する（北海道大学、東北大学、名古屋大学、東京大学、京都大学）、②生涯学習向け・通信教育向け一時保育施設等、病後児保育、多様なサービスを提供する保育室を業者に委託して新設する（中央大学、日本女子大学、武蔵野大学、目白大学、早稲田大学、京都大学病後児保育や待機児童保育）といった形式が見受けられるが、従来の③学内の事業所内保育所も健在ではある（京都大学、筑波大学、弘前大学、お茶の水女子大学、大阪大学）。

しかし、大学を企業・事業所としてみると、事業所内保育所の設置は進んでいるとはいえない。歴史的に女性は他の職種に比較して教育職に就く割合が高かったが（公務員、ジェンダー非対称的な女性向きといわれる専門職、例えば看護師、美容師と同様に）、高等教育になるほど女性の割合は非常に低かった。また、教育研究活動が整備されていないため、大学教員の出生率は低かった。学内保育所が充実していないのには、こういった背景があるだろう。

他方で、社会人入学、生涯教育、夜間学部、通信教育のスクーリング等、学生および教員、職員の保育のニーズはますます高まっている。業者委託や認可・認証保育所化等、様々な方法を模索して、今後保育環境が整えられていくことが必要であろう。

## 参考になるWEBページ

- 文部科学省 女性研究者支援モデル育成（科学技術振興調整費）：  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/jinzai/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/index.htm)

文部科学省では、大学や公的研究機関を対象として、女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、研究活動を継続するための支援を行う仕組みを構築する際の模範となる優れた取組を支援するため、科学技術振興調整費による新規課題「女性研究者支援モデル育成」を平成 18 年度より開始いたします。

- 文部科学省 特別研究員事業（復帰支援）（日本学術振興会）：  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/jinzai/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/index.htm)  
優れた男女の研究者が出産・育児による研究中断後に、円滑に研究現場に復帰できるよう、特別研究員事業による支援枠を創設します。
- 日本学術会議「女性科学者の環境改善の具体的措置について」（平成 12 年）：  
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-17-k132-2.pdf>  
学会託児、学内保育所の整備等について政府、大学、研究機関に要望
- 社団法人国立大学協会 男女共同参画に関するワーキング・グループ：  
[http://www.kokudaikyo.gr.jp/active/txt6-2/h12\\_5.html](http://www.kokudaikyo.gr.jp/active/txt6-2/h12_5.html)  
『国立大学における男女共同参画を推進するために』（報告書）
- 京大学生パパ・学生ママサークル・めんどり学部：  
<http://mendorigakubu.blog102.fc2.com/>  
学内保育所に関するリアルタイムの情報が入手可能

## 学内保育所一覧（調査時点：2008 年 1 月／一部抜粋） 作成：白井千晶

大学名：中央大学法学部通信教育課程		施設名：
施設概要：満 3 歳から小学校 2 年生まで	設置主体：	利用方法・利用資格：スクーリング中の託児室
保育料：半日 1,000 円、1 日 2,000 円		
参考 URL： <a href="http://www.tsukyo.chuo-u.ac.jp/index.html">http://www.tsukyo.chuo-u.ac.jp/index.html</a>		

大学名：弘前大学		施設名：弘前大学学内保育園
施設概要：40 名（うち 10 名一時保育）、生後 8 週～小学校入学前、24 時間開園／医学部付属病院内	設置主体：弘前大学（業務委託ピジョンハーツ）	利用方法・利用資格：弘前大学教職員の未就学児
保育料：33,000 円～47,000 円／一時保育 3,000 円		
参考 URL： <a href="http://www.hirosaki-u.ac.jp/jimu/soumu/hoikuen/tuika2.pdf">http://www.hirosaki-u.ac.jp/jimu/soumu/hoikuen/tuika2.pdf</a>		

大学名：北海道大学		施設名：子どもの園保育園
施設概要：	設置主体：一般認可保育園	利用方法・利用資格：
経緯：1958 年職員授乳所（職場内保育所）を開園、2005 年育児にあたる必要の生じた本学の職員や大学院生、ポストドクター、外国人研究者等が安心して就労又は就学できる環境を整えるため、北 11 条西 5 丁目に園舎を建築し、『子どもの園保育園』を札幌市の認可を得て設置・運営することとなる。（引用）		
参考 URL： <a href="http://www.hokudai.ac.jp/bureau/hoikuen/index.html">http://www.hokudai.ac.jp/bureau/hoikuen/index.html</a>		

大学名：熊本大学	施設名：学内保育施設設置予定
備考：大学病院内に教職員向け保育所「こぼと保育園」（1970 年設置）は別にあり	

大学名：京都大学女性研究者支援センター		施設名：保育園入園待機乳児保育室（京都大学女性研究者支援センター内）
施設概要：生後 9 週～年度末時点 15 ヶ月児、8 名	設置主体：	利用方法・利用資格：京都大学に所属する女子学生・女性研究者
保育料：50,000 円（税込）/月（乳児 1 人あたり）		
経緯：女子学生、女性研究者の研究と育児の両立を支援することを目的とし、女性研究者支援センター内に、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けます。この保育施設は、年度途中の出産等により、保育園の入園待ちを余儀なくされている女性研究者等を対象とし、平成 20 年 3 月末までの間、試行的に開設するものです。運営については、株式会社アルファ・コーポレーションに委託し、大学が一部費用を負担して実施します。（引用）		
参考 URL： <a href="http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/data/gakudouhoiku/index.php">http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/data/gakudouhoiku/index.php</a>		

<b>大学名:</b> 京都大学女性研究者支援センター		<b>施設名:</b> 京都大学女性研究者支援センター病児保育室 (京都大学医学部附属病院内)	
<b>施設概要:</b> 生後6ヶ月～小学校3年生、5名	<b>設置主体:</b>	<b>利用方法・利用資格:</b> 京都大学教職員・学生の子ども (非常勤講師の子も受け入れ、定員に空きがあれば男性教職員の子も可)	
<b>保育料:</b> 1時間500円/人 (昼食・おやつ代を含む)			
<b>経緯:</b> 原則として女性の京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京大病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行います (なお、京大病児保育室は、平成18年度～20年度科学技術振興調整費「女性研究者の包括的支援-京都大学モデル-」の事業の一環として設置されています)。(引用)			
<b>参考 URL:</b> <a href="http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/data/byoujihoiku/index.php">http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/data/byoujihoiku/index.php</a>			

<b>大学名:</b> 京都大学女性研究者支援センター		<b>施設名:</b> 学童保育 (京大吉田キャンパス内)	
<b>施設概要:</b> 定員: 10名～20名	<b>設置主体:</b>	<b>利用方法・利用資格:</b> 研究者のもつ就学児童を中心 (小学校1年生～6年生)	
<b>保育料:</b> 公営学童と同程度			
<b>経緯:</b> 設置予定			
<b>参考 URL:</b> <a href="http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/data/gakudouhoiku/enquete.php">http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/data/gakudouhoiku/enquete.php</a>			

<b>大学名:</b> 京都大学		<b>施設名:</b> 朱い実保育園	
<b>施設概要:</b>	<b>設置主体:</b> 公立認可保育所	<b>利用方法・利用資格:</b> 一般	
<b>経緯:</b> 1963年、京都大学の女子大学院生を中心に自宅での共同保育(「朱い実」)を開始し、この活動の中で翌年、婦人研究者連絡会(通称、婦研連:現在の女性研究者の会)を結成した。その後、職組の共同保育所となる。京都大学では、育児に関する支援として、1965年4月には北部保育所(現在の朱い実保育園)を、1966年9月には南部保育所(現在の風の子保育園)を開設した。これらの施設は、当時の国立大学としては先進的なものであった。その後、保育所としての認可を得るため、2つの保育所をもつ法人組織を設立し、現在では、それぞれ京都市の公立保育園となり、多数の本学教職員が利用している。(引用)			
<b>参考 URL:</b> <a href="http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/about/model/01.php">http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/about/model/01.php</a>			

<b>大学名:</b> 京都大学		<b>施設名:</b> 風の子保育園	
<b>施設概要:</b>	<b>設置主体:</b> 公立認可保育所	<b>利用方法・利用資格:</b> 一般	
<b>経緯・参考 URL:</b> 同上			

<b>大学名:</b> 九州大学		<b>施設名:</b> 杉の子保育園	
<b>施設概要:</b>	<b>設置主体:</b> 一般認可保育園	<b>利用方法・利用資格:</b>	
<b>経緯:</b> 1977年認可。九州大病院内託児室から一般保育園へ。			
<b>参考 URL:</b> <a href="http://ha2.seikyuu.ne.jp/home/suginoko/histories.html">http://ha2.seikyuu.ne.jp/home/suginoko/histories.html</a>			

<b>大学名:</b> 目白大学		<b>施設名:</b> 目白学園学生子育て支援サービス託児室	
<b>施設概要:</b>	<b>設置主体:</b>	<b>利用方法・利用資格:</b> 目白大学大学院生・目白大学生・目白大学エクステンションセンター受講生	
<b>保育料:</b> 大学院生:1コマ当たり¥30,000×コマ数/エクステンションセンター1講座1回当たり¥2,500×受講回数			
<b>参考 URL:</b> <a href="http://www.mejiro.ac.jp/ext/contents/takuji.html">http://www.mejiro.ac.jp/ext/contents/takuji.html</a>			

<b>大学名:</b> 武蔵野大学通信教育部		<b>施設名:</b>	
<b>施設概要:</b> 満3歳から6歳	<b>設置主体:</b>	<b>利用方法・利用資格:</b> スクーリング中、附属幼稚園で預かり	
<b>保育料:</b> 実費			

<b>大学名:</b> 名古屋大学(鶴舞地区)		<b>施設名:</b> ひまわり保育園	
<b>施設概要:</b> 定員60名(0歳～5歳、各10名)	<b>設置主体:</b> 認可保育所(社会福祉法人緑の丘福祉会を設立して運営)大学が土地を無償貸与	<b>利用方法・利用資格:</b> 原則として名古屋市民(うち名大関係者60%)	
<b>経緯:</b> 1968年共同保育所として設立、1976年認可			
<b>参考 URL:</b> <a href="http://www.nagoya-u.ac.jp/kyodo_sankaku_renew/pdf/shiryo38.PDF">http://www.nagoya-u.ac.jp/kyodo_sankaku_renew/pdf/shiryo38.PDF</a>			

<b>大学名:</b> 名古屋大学(東山地区)		<b>施設名:</b> どんぐり保育園	
<b>施設概要:</b>	<b>設置主体:</b> 認可保育所(社会福祉法人緑の丘福祉会を設立して運営)大学が土地を無償貸与	<b>利用方法・利用資格:</b> 原則として名古屋市民(うち名大関係者60%)	
<b>経緯:</b> 1968年乳児預り所として設立、1969年共同保育所、1976年認可			

<b>大学名</b> ：名古屋大学（鶴舞地区）		<b>施設名</b> ：あすなる保育所	
<b>施設概要</b> ：	<b>設置主体</b> ：共同保育所	<b>利用方法・利用資格</b> ：原則として名大病院職員	
<b>保育料</b> ：利用料（1,000円/日）大学より人件費あり			
<b>経緯</b> ：1977年看護婦授乳所として職員娯楽室を利用して出発。（前身であるひまわり共同保育所の認可に伴い、産休明け等の年度途中での入園ができなくなったことから、職員組合と親が病院に働きかけて開園）：共同保育所（職員組合が主体となって運営、大学も運営に関与）			

<b>大学名</b> ：名古屋大学（鶴舞地区）		<b>施設名</b> ：こすもす保育園	
<b>施設概要</b> ：常時23名、生後57日～未就学児/病後児保育も	<b>設置主体</b> ：認可外保育施設（ポピンズコーポレーション運営）	<b>利用方法・利用資格</b> ：2006年3月時点学生3名、教員と職員が半分ずつ、非常勤職員や、男性教職員3、4名。一時登録保育児が15名	
<b>保育料</b> ：21世紀財団からの助成 1,000万（5年間）/月極 38,000～65,000円/一時保育 30分 500円/病後児保育 750円/30分			
<b>経緯</b> ：国立大学時代…地域貢献を目的に保育園設置（認可園） → 法人化後…学内の要望（アンケート）と差異化・大学評価戦略 → 男女共同参画室からの発議 → 21世紀財団からの補助金 → 建設費約3600万円（半額補助）+備品 男女共同参画推進専門委員会委員、男女共同参画室室員、教育学または心理学を専攻する教員、国際交流事業に従事する教員、施設計画業務に従事する教員、嘱託医、本部の課長またはそれに準ずる者などからなる「こすもす保育園運営協議会」の協議に基づき大学が運営します。（引用）			
<b>参考 URL</b> ： <a href="http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/torikumi/nagoya.html">http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/torikumi/nagoya.html</a> ; <a href="http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/cosmos/index.html">http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/cosmos/index.html</a>			

<b>大学名</b> ：日本女子大学		<b>施設名</b> ：生涯学習総合センター託児室	
<b>施設概要</b> ：0～10歳	<b>設置主体</b> ：（業務委託先ロイヤルベビーサロン）	<b>利用方法・利用資格</b> ：	
<b>保育料</b> ：1時間 1,050円			
<b>参考 URL</b> ： <a href="http://lcc.jwu.ac.jp/RIYOU/takuji.htm">http://lcc.jwu.ac.jp/RIYOU/takuji.htm</a>			

<b>大学名</b> ：日本女子大学		<b>施設名</b> ：さくらナースリー	
<b>施設概要</b> ：月極保育、一時保育	<b>設置主体</b> ：日本女子大学	<b>利用方法・利用資格</b> ：日本女子大学教職員対象だが定員に余裕があれば一般利用、一時保育も可	
<b>経緯</b> ：日本女子大学の保育所「さくらナースリー」は、本学教職員のために昭和45年に設立が決定され、翌46年（1971）年に開所した。その前には卒業生が自宅を開放した「めぐみ保育園」があり、当時の教職員の熱心な運動や資金集めの結果、新設される豊明幼稚園の2階の一部に学内保育所が開設された。時代を先取りする画期的な発想の下に、人件費を負担して「0歳児からの子育て支援策」が始まったのである。専任保育士による入念な保育プログラムや手作りのおやつや昼食は利用者から高い評価を得た。通信課程生も夏のスクーリング中に子どもを預けた。（引用）			
<b>参考 URL</b> ： <a href="http://momi.jwu.ac.jp/~sogoken/project31-2007.html">http://momi.jwu.ac.jp/~sogoken/project31-2007.html</a> ; <a href="http://www.jwu.ac.jp/institution/sakura/index.html">http://www.jwu.ac.jp/institution/sakura/index.html</a>			

<b>大学名</b> ：日本女子大学		<b>施設名</b> ：非施設型病後児保育サービス	
<b>施設概要</b> ：	<b>設置主体</b> ：法人契約先 NPO 法人フローレンス	<b>利用方法・利用資格</b> ：日本女子大学教職員の子ども	
<b>保育料</b> ：毎月1万円～の会費の一部を大学が負担			
<b>経緯</b> ：2007年10月よりフローレンスと日本女子大学がパートナーシップ法人契約。病後児を自宅にて託児、病院通院等。			

<b>大学名</b> ：お茶の水女子大学		<b>施設名</b> ：いずみナーサリー	
<b>施設概要</b> ：18名、時間外は同大学生を「保育お姉さん」としてシッター紹介	<b>設置主体</b> ：お茶の水女子大学	<b>利用方法・利用資格</b> ：①本学学生・教職員、②学内関係者・桜蔭会会員・附属学校園保護者の紹介を受けている方、③附属学校園の在園児のきょうだい	
<b>保育料</b> ：月極週5日 70,000円～84,000円/一時保育1時間 1,500～1,800円/在学学生割引あり（半額を奨学金に）			
<b>経緯</b> ：2002年10月 お茶の水女子大学保育施設いずみ保育所としてスタート 2005年4月 お茶の水女子大学いずみナーサリー			
<b>参考 URL</b> ： <a href="http://www.ocha.ac.jp/izumi/">http://www.ocha.ac.jp/izumi/</a>			

<b>大学名</b> ：沖縄国際大学		<b>施設名</b> ：スマイル・ランド（大学施設利用の自主保育/共同保育）	
<b>経緯</b> ：2004年に発足した。在学中に妊娠した学生が、学業の継続、就職と子育ての責任を果たしたいという気持ちが周囲を動かした。学生ボランティアが中心で、登録者は8名いる。保育の場は教室だが継続的使用に大学から異論が出た。学生中心の組織は卒業で人材が不足している。学ぶ母親、働く母親への全学的理解と大学が責任をもつ学内保育所設立が望まれている。（引用）			
<b>参考 URL</b> ： <a href="http://momi.jwu.ac.jp/~sogoken/project31-2007.html">http://momi.jwu.ac.jp/~sogoken/project31-2007.html</a>			

<b>大学名：</b> 大阪大学		<b>施設名：</b> たけのこ保育園・まきば保育園	
<b>施設概要：</b>		<b>設置主体：</b> 自主運営方式	
<b>保育料：</b> 52,000円～65,000円／一時保育1日4,500円		<b>利用方法・利用資格：</b> 大阪大学教職員	
<b>経緯：</b> 自主運営方式から、2008年4月より大学が設置運営母体となりNPO法人阪大ワーク&ライフサポートが運営			

<b>大学名：</b> 琉球大学医学部		<b>施設名：</b> いずみ保育所	
<b>施設概要：</b>		<b>設置主体：</b>	
		<b>利用方法・利用資格：</b> 琉球大学医学部および病院職員等の子	
<b>経緯：</b> 看護師のための職場保育所である。当初は国が10名の専任保育士と職員を雇用した。少子化の波にあおられ近年は定員30名に満たない。現在の委託者は、看護師3名のみで他に女医、職員、医学生がいる。他学部の学生や地域開放は国から指導を受けて断念した。一方国の補助は減少し、現在は正規職員2名のみ、保育料は値上げされ、運営は国から医学部に移行された。非常勤の保育士が多いため運営に支障を来している。(引用)			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://momi.jwu.ac.jp/~sogoken/project31-2007.html">http://momi.jwu.ac.jp/~sogoken/project31-2007.html</a>			

<b>大学名：</b> 島根大学		<b>施設名：</b> うさぎ保育所	
<b>施設概要：</b> 月極保育、一時保育、夜間保育		<b>設置主体：</b> 島根大学	
		<b>利用方法・利用資格：</b> 島根大学職員及び島根大学医学部在籍学生が養育する0歳児(生後8週間以上)～6歳児(小学校就学前)までの児童	
<b>保育料：</b> 36000～39000円／一時保育1時間300円／延長保育2時間300円			
<b>経緯：</b> 2006年4月に医学部付属病院内に院内保育所を設置。島根大学は、医学部附属病院(出雲キャンパス)に、職員の福利厚生に資するため、院内保育所「うさぎ保育所」(医学部のシンボルマークの白ウサギにちなんで命名)を設置し、4月3日に開所式を行った。同保育所は、医学部敷地内の医学部会館1階に設けられ、教職員のサークル活動などに使われていた和室やトイレなど約165平方メートルをフローリングの保育室や幼児用トイレなどに改修して開設した。定員は20人で、運営は保育業者に委託し、4人の保育スタッフで世話をする。なお、食事は調理師免許を持つ保育士が手作りする。(引用)			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://www.shimane-u.ac.jp/index.php?option=com_content&amp;task=view&amp;id=132&amp;Itemid=90">http://www.shimane-u.ac.jp/index.php?option=com_content&amp;task=view&amp;id=132&amp;Itemid=90</a> <a href="http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/usagi/index.html">http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/usagi/index.html</a>			

<b>大学名：</b> 東北大学		<b>施設名：</b> 病後児保育室「星の子ルーム」(大学付属病院内)	
<b>施設概要：</b> 病後児保育、回復期の生後6ヶ月～小学3年生		<b>利用資格：</b> 教職員・学生の子	
<b>保育料：</b> 利用料(昼食・おやつ含む) 2時間未満…1000円、2時間以上4時間未満…2000円、4時間以上…3000円			
<b>経緯：</b> 東北大学病院では、平成13年から教室委員会という大学病院・医学研究科の助教授以下の教員・医員・大学院生などを中心とする団体と看護部が協働して病児保育施設を運営してきました。大学内の病児保育施設として全国で初の設置でした。病児保育とは、病気の回復期で登園・登校できない状態でありながら家庭で世話をする人がいない子供を、保護者にかわって看護・保育するものです。医師が常駐していない施設なので、実際には回復期の病児を対象とした病後児保育を行ってきました。大学病院の協力を得ながら教室委員会会員のボランティアで運営してきましたが、平成18年4月から大学病院の病後児保育施設「星の子ルーム」として運営されるようになりました。東北大学は平成18年度から、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業を受けて「杜の都女性研究者ハードリング支援事業」を開始しました。この事業の一環として、これまで病院地区でのみ利用されていた「星の子ルーム」は全学の職員・学生が利用できるように拡充されることになりました。(引用)			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://www.morihime.tohoku.ac.jp/kids/">http://www.morihime.tohoku.ac.jp/kids/</a>			

<b>大学名：</b> 東北大学		<b>施設名：</b> かたひら保育園	
<b>施設概要：</b>		<b>設置主体：</b> 一般認可保育園	
		<b>利用方法・利用資格：</b>	
<b>経緯：</b> 1982年認可。東北大学学内保育所から一般保育園へ。			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://www.skiboko.org/katahira.html">http://www.skiboko.org/katahira.html</a>			

<b>大学名：</b> 東京大学(本郷地区)		<b>施設名：</b> たんぼぼ保育園	
<b>施設概要：</b> 108名(0～5歳)		<b>設置主体：</b> 社会福祉法人経営認可保育園	
		<b>利用方法・利用資格：</b> 一般認可保育園に準ず。	
<b>保育料：</b> 一般認可保育園に準ず。			
<b>経緯：</b> 1968年に東大職員を対象とした「東大本郷保育園」として設立され、1978年に、大学が土地を無償貸与し、社会福祉法人が経営する認可保育所に移行するとともに、地域の子どもも受け入れるようになりました。現在、利用者の約1/3が東大関係者の子弟です。(引用)			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://www.iam.u-tokyo.ac.jp/hoiku/05.html">http://www.iam.u-tokyo.ac.jp/hoiku/05.html</a>			

<b>大学名：</b> 東京大学（駒場地区）		<b>施設名：</b> 東大駒場地区保育所	
<b>施設概要：</b> 30名（0～5歳）	<b>設置主体：</b> 認証保育園（運営はNPO法人 東大駒場保育の会）	<b>利用方法・利用資格：</b>	
<b>保育料：</b> （2005年） 通常保育：3～5歳児：月160～180時間：50,000円、～200時間：58,000円、～220時間：66,000円 0～2歳児：4,000円アップ 土曜保育：1日5,000円、半日3,000円 上記時間を越えた延長保育：300円/15分（夜8:30まで） 夕方給食：7,000円/月 400円/回 曜日契約保育：週1日：18,000円、2日：28,000円、3日38,000円（0～2歳児は2,000円アップ） 日ごろ契約していない子どもの一時的保育：1日6,000円、半日4,000円、1時間1,000円 学童の放課後育成支援：1日3,000円、半日2,000円、1時間500円			
<b>経緯：</b> 1971年に教職員組合が運営する「駒場地区保育所」として設立され、翌72年から都、区の補助を受けた無認可保育所として、地域の子どもの受け入れも開始しました。2003年4月にNPO法人が設立され、2004年4月に新しい建物に移行、同年9月に都の認証保育所になりました。大学が土地、建物を無償貸与し、光熱水費、設備関係の援助を行っています。認証保育園として都、区からの援助も受けています。現在、利用者の約半数が東大関係者の子弟です。（引用）			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://www4.ocn.ne.jp/~komabaho/">http://www4.ocn.ne.jp/~komabaho/</a>			

<b>大学名：</b> 東京大学（白金地区）		<b>施設名：</b> 東京大学医科学研究所臨時授乳室「ひまわり保育園」	
<b>施設概要：</b> 約10名（現在5名）（0～3歳）	<b>設置主体：</b> 無認可保育所（運営は医科学研究所の運営委員会）	<b>利用方法・利用資格：</b> 両親のいずれかが医科研究で勤務する者	
<b>保育料：</b> （2005年） 月に9日まで：月額17,000円（保育料）プラス4,000円（昼食・教材費） 月に10日以上：月額34,000円（保育料）プラス8,000円（昼食・教材費）			
<b>経緯：</b> 1970年に医科学研究所関係者むけの保育施設として設立され、研究所自身が運営する施設として、保育室の設置費用や運営経費が補助されています。（引用）			

<b>大学名：</b> 津田塾大学		<b>施設名：</b> さくらんぼ保育所	
<b>施設概要：</b>	<b>設置主体：</b> 共同保育から大学助成へ、民間保育サービス会社業務委託	<b>利用方法・利用資格：</b> 学生、大学院生、教職員の子、公開講座受講生の子	
<b>経緯：</b> 約20年前前に大学院生の提案で誕生した学内保育施設を前身とする学内保育所を構内に設置している。当初は学生同士が互いの子供の面倒を見合う形のものであったが、まもなく常設の保育所となり、利用者（親である学生、教職員）が保育者を雇用し、保育以外の運営は利用者が共同で担う運営方法がとられてきた。しかし、教職員の年齢層の変化もあり、利用者が減少し、従来の方法では円滑な運営が行なわれない事態となった。学びながらあるいは働きながら子供を育てることに対する支援は、女性の自立を理念とする本学のあり方にも合致していることから、2000年度に大学が財政および事務の支援をし、保育は民間保育サービス会社に委託する方法を導入し、保育所を存続させることとなった（2001年度の利用者は定期利用が9名、一時利用が18名である）。利用者は学生、教職員が中心であるが、公開講座の受講生もこの保育所を利用することができると定めている。（引用）			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://www.tsuda.ac.jp/ja/accrreditation/image/houkoku2003_10.pdf">http://www.tsuda.ac.jp/ja/accrreditation/image/houkoku2003_10.pdf</a>			

<b>大学名：</b> 筑波大学		<b>施設名：</b> ゆりのき保育所	
<b>施設概要：</b> 月極50人、一時保育10人、7～21時	<b>設置主体：</b> 筑波大学が保育委託業者に委託（(株)サクセスアカデミー）。学内に施設委員会・保育施設運営協議会を設置し協議に基づいて運営。	<b>利用方法・利用資格：</b> 筑波大学職員未就学児	
<b>保育料：</b> 月極31,000～50,000円／一時保育1日3,000円1時間600円			
<b>経緯：</b> （財）21世紀職業財団茨城事業所が設置・運営費用の一部を助成。付属病院が附属病院は、医療スタッフによる園児の健康管理や栄養管理室による給食、おやつ等の提供などについて協力。延べ床面積は国立大学で最大。			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://www.geocities.jp/yurinokihouikusyo/">http://www.geocities.jp/yurinokihouikusyo/</a>			

<b>大学名：</b> 早稲田大学		<b>施設名：</b> 東京都認証保育所「ポピンズナーサリー早稲田」	
<b>施設概要：</b> 60人、生後57日～未就学児、7:30～22:00	<b>事業主体：</b> 早稲田大学、 <b>設置主体：</b> ポピンズコーポレーション	<b>利用方法・利用資格：</b> 一般（学生割引あり）	
<b>保育料：</b> 月極50,000～96,000円／一時保育1時間1,600円／学生割引あり／ビジター料金あり			
<b>経緯：</b> 2007年2月1日から東京都認証保育所「ポピンズナーサリー早稲田」（新宿区西早稲田1-1-7）を新たに開所し、2月14日開所式を執り行いました。本学では、2003年4月7日から、子育て支援および地域貢献として地域開放型保育所「ナーサリー早稲田（定員30人程度）」を運営してきましたが、このたび、これまでの保育所（新宿区早稲田町27）を移転・新築し、定員60人規模で給食も提供できるA型（駅前基本型）保育所として東京都より認証されました。（引用）			
<b>参考 URL：</b> <a href="http://www.waseda.jp/student/hoikusyo/">http://www.waseda.jp/student/hoikusyo/</a>			